

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	社会基盤を構築するためのシステムLSI設計手法の研究	研究代表者名	安浦 寛人
-------	----------------------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：
目標の設計期間の短縮、省エネルギー設計、及び情報安全の適用についてそれぞれ具体的な成果を得ている。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（ ） 十分に貢献できた
- イ（○） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：
3主要課題に関する個々の進歩は高く評価できる。橋渡しする統合的な研究の努力については、まだ部分的に留まっている。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（○） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：
3つのテーマそれぞれに対しては研究費が有効に活用されたと考えられる。統合的成果に関しては費用対効果において非常に高いとは言い難い。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
全般に成果の報告は良く行われているが、国際会議への報告が限定的であった。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

RF 読み取り ID カードを主たる対象例として、多くの関連研究者を組織し、連携研究により3つの主たる目標、短期間設計、省エネルギー設計、情報安全確保について具体的な成果を得ており、LSI 設計手法の研究として十分な成果を得たといえる。ただし、総合化した成果のレベルについて、まだ比較評価できるところまでではなく、部分的である。